

一般質問



山内 晃 議員 (自民)

給食費滞納問題について

「義務教育だから払わなくていい」などの理由で、払えない大人が年々増加しており実態は深刻だ。滞納金額の増加によって食材の種類の変更や、デザート回数を減らすなど、子どもたちにしわ寄せがきている。区での近年の滞納金額と件数などについて伺う。また、意図的に滞納している金額と件数についても伺う。②他の自治体では校長や教員が夜間や休日を利用して滞納世帯を訪問するなどし、個別に支払いを求めると、ポケットマネーで立てかえてあるケースもあると聞く。意図的に払わない保護者に対し、簡易裁判所に申し立てるなどの法的措置に踏み切るところも出てきているとのことだ。区での対応と今後の対処について所見を伺う。

教育次長 ①平成15年度は98件135万3千572円で16年度は98件211万2千401円、17年度は

86件175万701円と件数は横ばい状態で金額は増加傾向だ。意図的な滞納は、18年11月時点で62件123万4千705円だ。滞納は給食の質を低下させ、教育目標の達成を損なう恐れがあり許されないもので、断固とした対応が必要と認識している。②督促状の発送や電話による督促を行うなどにより、早期の納付をお願いしている。特に意図的と思われる滞納については、電話や訪問などによる督促を粘り強く継続的に繰り返し行い、滞納を繰り返さないよう指導している。今後学校とも協議し、保護者への説明や司法手続きなどを含めた督促方法を検討する。

メタボリックシンドロームの危険性について

①メタボリックシンドロームは内臓脂肪症候群と呼ばれており、生活習慣病の一種と理解されている。不規則な食生活などにより必要以上に脂肪が体に蓄積され、健康を損なう恐れがあるが、区民に対してどのような注意を促してきたのか。今後、区民からの相談などによりどのように対処していくのか。②厚生労働省の調べでは、中高年世代の約二千万人がメタボリックシンドローム患者、またはその予備軍といわれている。今後、検診などに対して助成をしていく考えはあるのか。

児童保健事業部長 ①今年度から、メタボリックシンドロームをテーマにした講演会を2回行ったほか、地区健康づくり推進委員会が区民ま

りなどの際に腹囲測定などを行い、注意喚起に努めてきた。区民の皆さんからの相談については、これまでも糖尿病教室や地域住民からの依頼型健康学習などで、講習や個別の相談を行っている。今後さらに、ホームページやパンフレットなどを活用して啓発に努める。②新年度予算に、医療保険者としての健診、予防や指導のあり方についての検討経費等を計上している。さらに健康づくりに関する体験型のイベントを開催するなど、今後も区民の健康づくりに積極的に取り組んでいく。

「あいらつ運動」の大切さについて

①子どもが健やかに育つためには、家庭や地域でのコミュニケーションの果たす役割は重要であり、その基本が「あいらつ」だと考える。「あいらつ運動」を、キャンペーンのような形で地域において推進したことはあるのか。また、今後、推進していく考えはあるのか。さらに安心・安全のまちづくりの観点から、運動の重要性についてどのように考えているのか。

区長 ①青少年問題協議会ではあいらつの重要性を認識し冊子に取り上げているなどだ。安心・安全のまちづくりの観点からは各地域で展開されている町会・自治会などによる子どもを見守るための自主的な防犯活動の中で、子どもたちとのあいらつが積極的に行われている。引き続き、あいらつの重要性について積極的にPRしていく。



本間 隆 議員 (区民)

今後の教育改革のすすめ方について

①小中一貫教育を進めていく上で施設一体型と施設分離型が存在しており、それぞれが改築、または補強工事を行うこととしている。今後学校の施設による地域の格差などで新たな課題が生じるのでは。また、保護者や地域の人々の不安を解消させるための教育委員会や学校における取り組みは。

教育次長 ①学校は、開校時期や立地条件により違いがある。それぞれの学校の違いを認識した上で特色ある学校づくりを柱として、各学校の教育の質の向上に向け支援をしてきた。特に施設改善の要望が寄せられている学校は、保護者や地域の皆様には、学校を通じて意見を聞く機会を設けるなどで理解を求めていく。

児童保健事業部長 ①環境の変化に適切に対応できる子どもを育成するため、就学前乳幼児教育プログラムの策定に着手した。来年度はさらに幼・保小の関係者が連携し、年長児

が学校生活に期待とあこがれをもって就学できる環境づくりを目指していく。

環境問題への取り組みについて

①環境問題は、常に自分の足元から周辺に警鐘を鳴らし続けなければならない息の長い問題だ。区が環境情報活動センターを設置した経緯、その事業内容や今後の課題について伺う。②環境大賞ができたねらいは。③今回応募された団体の数は。④今後の展開をどのように考えているのか。

環境清掃事業部長 ①区民の自主的な環境問題への取り組みを支援するために設置し、区民が環境学習や活動の場と

して利用し、環境情報を発信している。今後、環境講座や情報発信を支える環境記者をふやすなど、さらなる区民の参加の拡大が課題だと考えている。②区内の多彩ですぐれた環境活動を顕彰し広く紹介することで、環境問題への関心を高め、活動への共感を広げようとするものだ。③22団体1個人の応募があった。④多くの人たちに環境活動が広がるよう一層努めていく。

新・水とみどりのネットワークについて

①目黒川は、周辺の再開発により親水護岸の検討が進められるなど良好な景観整備がなされつつあるエリアだが、水質浄化については、まだ課題が残っていると考える。水質についての現状認識と今後の取り組みについてはどのようになっているのか。②都の運河ルネッサンス推進地区に指定された天王洲地区では、これまでどのような取り組みがなされているのか。また、当初推進対象地域ではなかった勝島運河でのその後の状況について伺う。③立会川は浄化対策により以前より水質の改善が見られるが、メタンなどが発生しやすく臭気の苦情がまだまだに絶えない。さらなる水質改善に取り組むことが必要だと考えるが、現状認識と今後の取り組みについての考えは。

区長 ①汚濁の度合いを示すBODが河川の表層で良好な値を示しているが、中層から下層にかけての水質の改善が進んでいない。今後は、さまざまな水質改善手法について比較検討を行い、目黒川に適した対策を見出していく。②民間事業者が水上レストランを設置し営業を開始したほか、さまざまなイベントが企画、開催されている。勝島運河については、平成18年に勝島・浜川・鮫洲地区運河ルネッサンス協議会が登録され、推進地区に指定された。③河川の中層から下層の水質は悪い状態であり、来年度、下層の酸素をふやす対策などに取り組んでいきたい。

**品川区議会ホームページをご覧ください**

品川区議会のホームページを開発しています。議員プロフィールや最新情報など、見所いっぱいです。ぜひご覧下さい。

**品川区議会のホームページアドレス**

<http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/kugikai/index.html>

各会派も独自にホームページを設けているところがありますので、会派からの届け出により順次ご紹介しています。こちらもご覧ください。

品川自民党区議団	<a href="http://www.shinagawa-jimin.jp/">http://www.shinagawa-jimin.jp/</a>
日本共産党品川区議団	<a href="http://www.jcp-shinagawa.com/">http://www.jcp-shinagawa.com/</a>
品川区議会公明党	<a href="http://www.shinagawa-gikaikomei.org/">http://www.shinagawa-gikaikomei.org/</a>
品川区民連合	<a href="http://www.shinagawa-kuminrengo.org/">http://www.shinagawa-kuminrengo.org/</a>
品川・生活者ネットワーク	<a href="http://shinagawa.seikatsusha.net/">http://shinagawa.seikatsusha.net/</a>